

星のふるさと

森野 水琴

彼は夜空の星を眺めている。

それぞれの星の光は、距離に応じて何年もの時間をかけて届いている。ある星はもう消えてしまい、光だけがやっと届いているのかもしれない。ある星は生まれて間もないのに、まだ光が届いていないかもしれない。だが彼は今、この瞬間に星々に見守られている。

そう、見守られながら生きている。

その安心感に背中を押されている。

彼自身が輝くわけではないが、小さな営みを続けられる。

満天の星に彼は願う。

これからも見守つてください。